CLUBMAN RACE

2021 SUZUKA CLUB MAN RACE Round 4

2021 鈴鹿クラブマンレース Round 4 開催報告書

■開催概要

●シリーズ名称 ： 2021 鈴鹿クラブマンレースRound 4
●主催 ： 中日本自動車短期大学レーシングクラブ（ARCN）、鈴鹿モータースポーツクラブ（SMSC）
●協力 ： ARC、AASC、OCCK、KRHC、チーム淀.....
●競技 ： JAF公認・準国内格式　公認番号2021-2003
●会場 ： 鈴鹿サーキット フルコース（5.807km）
●開催レース ： 総参加台数／160台
クラブマンスポーツ/FCR-VITA／45台
CS2／9台
スーパーFJ／27台
インタープロトシリーズ／15台
KYOJO CUP／14台
N-ONE OWNER'S CUP／50台
●開催日 ： 2021年7月24日（土）・25日（日）
●天候 ： 快晴／24日（土）、快晴／25日（日）
●路面 ： ドライ／24日（土）、ドライ／25日（日）

★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2021/clubman/

■次回レース開催概要

●シリーズ名称： 2021 鈴鹿クラブマンレースRound 5
●開催日 ： 2021年9月11日（土）・12日（日）
●主催 ： オムニバスカークラブオブカンサイ（OCCK）、鈴鹿モータースポーツクラブ（SMSC）
●会場 ： 鈴鹿サーキット フルコース（5.807km）
●開催クラス ： スーパーFJ、FFチャレンジ、クラブマンスポーツ、CS2、Vitz、ワンメイクレース（PCCJ、Yaris）

2DAYS大会となった鈴鹿クラブマンレース第4戦。真夏の暑い天候の下、熱く激しいバトルが披露された

ワンメイクレースも盛り上がった第4戦
熱い戦いが2日間に渡って展開された!!

第3戦が開催されてから約一カ月後の7月24日（土）・25日（日）。すっかり真夏の暑さとなった鈴鹿サーキットフルコースにおいて鈴鹿クラブマンレースの第4戦が開催されました。

入場ゲートにて検温が実施され、レース参戦者に限定された場内ではマスクの着用やソーシャルディスタンスの確保が徹底されるなど、新型コロナウイルス感染拡大に対する対策が講じて開催されたこの第4戦では、鈴鹿クラブマンの各カテゴリーに加え、「インタープロトシリーズ」、「KYOJO CUP」、「N-ONE OWNER'S CUP」といったワンメイクレースも開催されました。また、24日（土）に各カテゴリーの公式予選と「インタープロトシリーズ」のジェントルマン第1レースやクラブマンスポーツ/FCR-VITAの決勝レース、翌25日（日）にクラブマンスポーツ/FCR-VITA以外の決勝レースが行われる2DAYS大会として開催されたのもトピックでした。

今シーズンの鈴鹿クラブマンは全戦がフルコースを舞台に開催されており、従来以上に激しいバトルが披露されています。今回もファイナルラップでトップがスローダウンし、徳升広平が逆転優勝を飾ったクラブマンスポーツ/FCR-VITA、サバイバルレースとなったCS2、ファイナルラップでも何度も順位が変わったスーパーFJなど、各レースでひと時も目が離せないバトルが披露される2日間となりました。

次戦はまだまだ暑い9月半ばに行われる第5戦。3戦を残してシリーズが折り返しを迎え、後半戦に入ります。通常の鈴鹿クラブマンの各カテゴリーに加え、「PCCJ」や「Yaris」といったワンメイクレースも開催されるこの第5戦にも是非注目してください。

「N-ONE OWNER'S CUP」にはレースアナウンサーのピエール北川さんも参戦。2017年以来4年ぶりの鈴鹿サーキットでレース参戦だったそう

■CS2 Class

ポールポジションスタートのいむらせいじと2番グリッドスタートの松本吉章が横並びの状態で1コーナーへ、いむらが前に出るが、すぐに松本がトップに。松本は早くもオープニングラップからいむら以降を引き離しにかかる。いむらの後方ではスタートで出遅れた見崎清志が3番手に。2周目に見崎がいむらをパスしかける。東督也と吉村一悟がサイドbyサイドの状態で4位の座を争うが、吉村がコースアウト。東とk.kがスプーンカーブでスピン。依田学嗣がマシンをストップする。ピット出口のホワイトラインカットの違反のため、ドライビングスルーペナルティが出された見崎がピットに。終盤に松本の背後にいむらが接近。5周目のスプーンカーブで松本をパスしたいむらがトップチェッカーを受けた。

公式予選で唯一2分16秒台をマークしたいむらせいじがポールポジションからスタート。ポイントリーダーの松本吉章、大会最年長75歳の見崎清志と続いた

サバイバルレースとなったこのカテゴリーのレース。いむら（写真中央）がポールtoウィンを飾り、今シーズン初優勝。2位は松本、東督也が3位だった

■クラブマンスポーツ/FCR-VITA Class

ローリング式によりレースがスタート。ポールポジションスタートのトミタリュウイチロウがホールショットを奪う。それに2番グリッドスタートの徳升広平、3番グリッドスタートのいむらせいじと続く。トミタは早くもオープニングラップのデグナーカーブ1つ目あたりまでに後続を引き離すことに成功。そのトミタ、徳升、5番グリッドスタートの大八木龍一郎、4番グリッドスタートの村松日向子のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。複数台がコースアウトしたことにより、セーフティカーがコースへ。リスタート後、再びトミタが単独トップに。大八木と中里紀夫が接触したことにより、徳升、村松も単独2位、単独3位となる。トップを走るトミタのマシンが失速。徳升が大逆転で優勝を決めた。

FCR-VITAとの混走によって行われたこのカテゴリーのレース。トミタリュウイチロウがポールポジションからスタートすることとなった

SCがコースに入るなど、大荒れの展開に。トップを走っていたトミタのマシンが最終ラップでスローダウン。徳升広平が優勝を飾った

■スーパーFJ Class

ポールポジションスタートの佐藤巧望と2番グリッドスタートの上野大哲が横並びの状態で1コーナーへ。ホールショットを奪ったのは佐藤だった、それに上野、3番グリッドスタートの森山冬星と続く。その3台に冨田自然、三島優輝、高口大将を加えた6台がトップグループを形成し、テールtoノーズのバトルを披露。3周目の130Rで森山が上野をパスする。シケインでクラッシュしたマシンがあったことにより、セーフティカーがコースへ。リスタート後も佐藤が集団をリードして1コーナーへと飛び込んでいく。その佐藤、森山、上野がトップ3となると、森山が8周目の1コーナー進入で佐藤をパス。森山と佐藤はファイナルラップでも順位を入れ替えたが、森山、佐藤、上野のオーダーでレースを終えた。

佐藤巧望が予選で唯一の2分16秒台となる2分16秒986をマークしてポールポジション。決勝ではその佐藤が真っ先に1コーナーへと飛び込んでいく

開幕戦、第2戦、第3戦のレース2を2位で終え、第3戦のレース1では3位を獲得している佐藤は今回も2位。森山冬星が初優勝を決めた

■インタープロトシリーズ

1台の車両をプロドライバーとジェントルマンドライバーが共有し、別々のレースを闘うというこのカテゴリー。ジェントルマンドライバーがトラブルに見舞われるとプロドライバーがレースに出られない事態が発生するため、慎重に走りながらも上位チェッカーを目指すという駆け引きが見え隠れする展開に注目が集まった。使用されるのはこのシリーズのために専用設計されたレーシングカー。昨年に続き、このワンメイクレースは2度目の鈴鹿開催となった。

ドライバーをサポートする電子デバイスが一切搭載されないため、ドライバーのスキルが際立つレースと言える

7月24日(土)に開催されたジェントルマン第1レースではファイナルラップで逆転した山口達雄がトップチェッカーを受けた

■KYOJO CUP

男女間では身体能力の面でどうしても埋められない差があるため、様々なスポーツが男女を分けて行われている。それに倣い、女性だけのプロレースシリーズと行われているのが「競争女子」だけが参戦できる「KYOJO CUP」だ。「インタープロトシリーズ」同様、鈴鹿での開催は昨年に続き2回目。マシンは「VITA-01」が使用される。レースは猪爪杏奈がホールショットを奪ったが、2周目にその猪爪をパスした辻本始温がトップチェッカーを受けた。

ワンメイク車両ではあるが、カウリングは3種類のデザインから選べる。思い思いに仕上げられたカラーリングと相まって個性豊かなマシンがグリッドに並ぶ

辻本始温が優勝。2番手でチェッカーを受けた村松日向子は妨害行為により40秒加算。下野璃央が繰り上がって2位になった（写真は暫定表彰時のもの）

■N-ONE OWNER'S CUP

全国の主要サーキット8箇所にて全16大会が争われているHondaの軽自動車「N-ONE」によるワンメイクレース。ナンバー付き車両が使われるため、気軽に参戦できるが、ワンメイクならではの激しいバトルがそこかしこで見られることで知られる。ここ鈴鹿サーキットでは年間3戦が開催されており、今回が今シーズンの2戦目だった。レースは、ポールポジションの平尾益士がオープニングラップから後続を引き離してポールtoウィンを飾った。

オートバイレーサーの出口修がN-ONEスプリントレース初参戦。平尾益士、小野輝平に続く3番グリッドを獲得

平尾がオープニングラップから後続を引き離してポールtoウィン。終始集団をリードして2位争いを制したのは小野。岡村英莉が3位だった

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光ったドライバーに一問一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一問一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

クラブマンスポーツClassで逆転優勝

徳升 広平 選手（26歳／フジタ薬局レーシングチーム）

Q: 公式予選で2分27秒台をマークしたのはトミタリュウイチロウ選手と徳升選手だけでした。どんな予選でしたか。

「クリアラップを取るために皆さんがコースインしてしばらくしてからコースに入りました。作戦通りに走ることができ、良いタイムをマークできましたがトミタ選手はそれより速かったです。コンマ255の差はけっこう大きいので悔しいです」

Q: ローリングスタートで始まったレース、トミタ選手に続く2番手で1コーナーに突入しましたね。

「実はギアを間違えてしまい、1コーナー進入時に他の選手に並ばれて焦りました。なんとかグリッドのオーダー通りに1コーナーに入れてホッとしましたが、その後はトミタ選手に離されてしまいました。やはりトミタ選手は速かったです」

Q: そのトミタ選手がファイナルラップでスローダウンしました。

「デグナーかどこかで一気に追いついたので、あれ!?と思いました。パスした時も譲ってくれた!?と思いました。素直に喜べませんが、これもレースだと思います。勝てて良かったです」